

TOKUYA TIMES

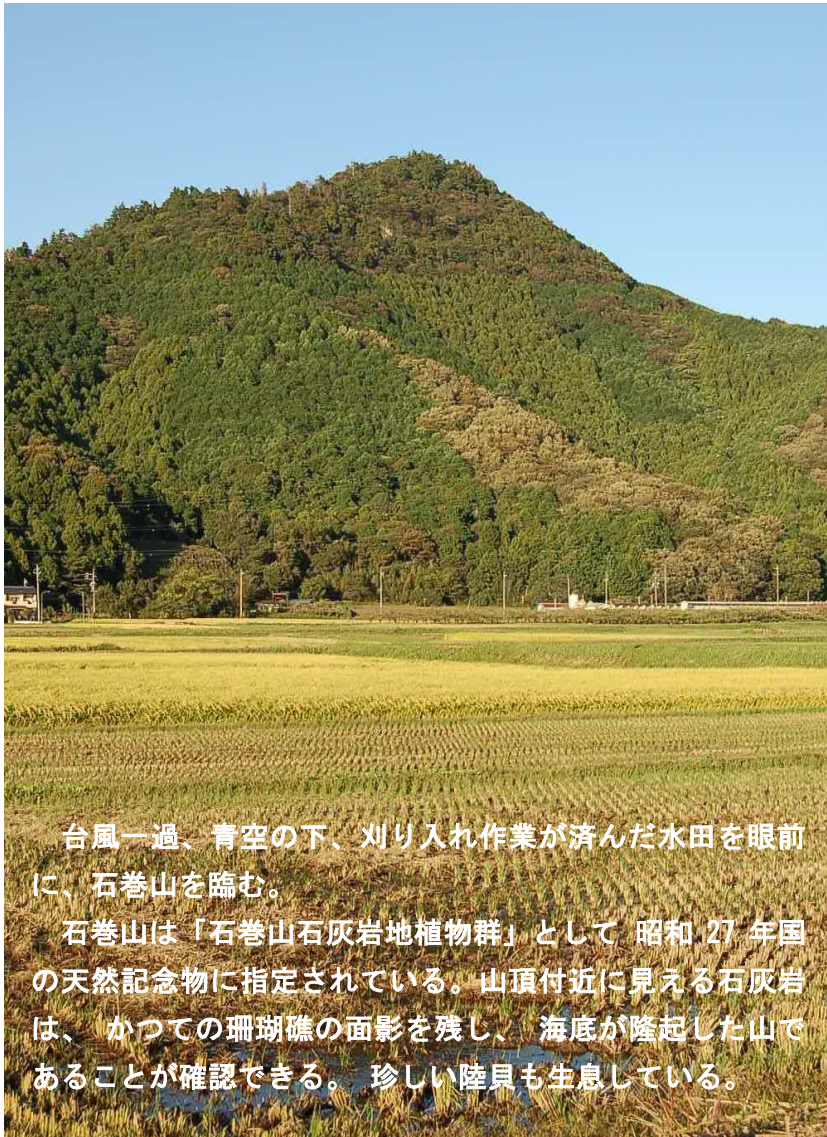
とくや
タイムズ

Now

<http://ito-tokuya.com/tokuya>

伊藤 とくや

Autumn, 2009, vol.10

生物多様性条約第10回目締約国会議における
環境文化都市豊橋市の役割・期待について

台風一過、青空の下、刈り入れ作業が済んだ水田を眼前に、石巻山を臨む。

石巻山は「石巻山石灰岩地植物群」として昭和27年国の天然記念物に指定されている。山頂付近に見える石灰岩は、かつての珊瑚礁の面影を残し、海底が隆起した山であることが確認できる。珍しい陸貝も生息している。

第10号発行のご挨拶

いよいよ来年10月11日～29日の約3週間にかけて、生物多様性条約第10回目締約国会議「COP10(コップ テン)」とカルタヘナ議定書第5回締約国会合が、愛知県にて名古屋市を中心に開催されます。

これらの会議は国際会議であり内容への地域の直接関与はありませんが、地域に対して意義と狙いを定め、さらに協力を呼び掛けています。

「生物多様性条約」の3つの目的とは・・・

1. 地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること
2. 生物資源を持続可能であるように利用すること
3. 遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること

締約国に対する要求とは・・・

- 「能力に応じた、保全、持続可能な利用の措置をとること」
- 「各国の自然資源に対する主権を認め、資源提供国と利用国との間の利益の公正かつ衡平に配分すること」
- 「国家戦略の策定」

2010年は、国連の定めた「国際生物多様性年」であり、会議では生物多様性の損失速度を減少させたかなど、以下を議題に予想されている・・・

- 「2010年目標の達成状況の検証と2010年以降の目標の決定」
- 「遺伝資源を活用した食品、医薬品等の利益配分」

それでは、COP10開催の地域の意義・狙いとは・・・

外に向けては、

『会議を通じ地域の国際的な評価を高め今後の地域発展につなげる』とし、

内に向けては、

『県民の自信・誇りを高める』

『愛知万博の継承発展を図る』

『県民・企業・行政の環境力の向上を図る』としています・・・

生物多様性ってなんだろう

この地球上には、私たち人間だけではなく、動物や植物など色々な種類の生き物が一緒にくらしています。例えば、公園に咲く草花や、そこに集まる虫、そしてその虫を食べる鳥たち。このように、たくさんの生きものがつながりあって生きていることを「生物多様性」といいます。

私たちは、生物多様性の恵みに支えられて生きています。例えば、食べもの、木材、服や医薬品。さらに、私たちが生きるために必要な酸素は植物などが作ってくれており、汚れた水も微生物などが綺麗にしてくれています。生物多様性は、私たちの生活になくてはならないものです。

しかし、人間の行為で、たくさんの生きものが生きていくことが出来なくなって、今15分に1種の割合でこの地球上から生き物がいなくなっているとも言われています。ですから、人間が生物多様性を守らなければいけません。そのために、世界中の国(約190ヶ国)が集まって会議が行われており、2010年に行われるその会議「COP10」は、愛知県・名古屋市で開催されます。みなさんもCOP10が成功するように、応援してください。

また、地球に住む生きものと仲良く生きるため、私たち1人ひとりにできることもたくさんあります。たとえば、生きものからの恵みである食べ物に感謝をこめて、いただきましょう。そして、身近な生きものを大切にしましょう。

問題【1】 生物多様性に対する認識とこれまでの取り組みについて

問 環境の保全も踏まえた、この地域での生物多様性に対する認識とこれまでの取り組みについてうかがう。

答 本市は、豊川を始め多数の河川、太平洋と三河湾に囲まれ、白く長い砂浜や大きな干潟、弓張山系の山々とその湧き水からなる湿原など豊かな自然環境に囲まれ多くの生態系や、多くの貴重な生物が生息しています。この豊かな自然環境における生物の多様性を確保するためには、必要な情報を提供することが必要です。

そのため平成10年度に自然環境基礎調査を実施し「豊橋自然発見」の発行や「生態系保全マニュアル」の市ホームページへの掲載を行うとともに、各種の自然観察会の開催や保護活動、清掃活動などの生物多様性の推進に寄与する施策に取り組んできました。また、来年のCOP10の関連事業として平成20年度から愛知県や地元の自然保護ボランティア団体とともに「東三河自然環境ネット」を設立し、生物多様性の推進に努めております。

おもい 「生物多様性保全推進支援事業」に、地元のNPOや大学、愛知県などで構成する「東三河自然環境ネット」が採択されました。この活動に対して本市も積極的に支援されることを期待します。

問題【2】 『COP10 開催の地域の意義・狙い』の認識と対応について

(ア) 本市には国や県の天然記念物をはじめ、海・山・川には恵まれた生物生息地域が沢山あるが、これらの**自然資源の活用について**うかがう。

答 国の天然記念物「石巻山石灰岩地植物群落」はじめ、「葦毛湿原」、「ナガバノイシモチソウ自生地」、アカウミガメの産卵地である表浜、東アジア有数の渡り鳥類の中継地汐川干潟など豊かな自然資源に恵まれている。

各国や日本各地からの来訪者に視察等いただくような行事を開催したい。

問 大変良く出来ている生態系保全マニュアルのPRをすべきだと思うがお考えは？ また、自然や生物を愛するナチュラルリストやボランティア、NPOなどの団体との協働が必要だと思うが？

答 インターネット上にある生態系保全マニュアルの工夫を図るとともに、今後、三河生物同好会、東三河自然観察会、豊橋うみがめクラブ、穂の国森づくりの会など自然や生物愛好団体等の協力を得て、本市の自然環境の保全や生物多様性にかかる施策に協働していきたい。

おもい COP10を機に、あらためて多くの市民が地域の豊かな自然資源に誇りを持つことで、地域の魅力がさらに発信されることを期待します。

(イ) 「自然史博物館、石巻自然科学資料館」など**環境・自然を学ぶ施設の活用について**うかがう。

答 「生物多様性」の概念には、「生命の進化」と「絶滅」を繰り返し現在に至るまでの生物多様性の歴史や、生き物たちの住む生息環境の持続と人間活動の調和の意味も含まれている。

豊橋市自然史博物館には、地球の歴史で5回以上の大量絶滅とその後の繁栄(生物の種の多様化)の様子についてたどることのできる常設展示室があり、地域に生息する生き物を学べる「郷土の自然展示室」がある。

石巻自然科学資料館は、特異な地形・地質を反映して固有な動植物相を形成している石巻山の中腹にあり、更なる利用の促進を図りたい。

問 自然史博物館という存在の「役割」と「使命」についてうかがう。

答 37万点の資料を収蔵している。標本類の継続的な保管管理は、時系列に沿った環境の歴史の検証に不可欠なものです。

おもい 愛知万博には「こども環境サミット 2005」が開催、関連事業で『アイスマン展』も開催。市制施行100周年記念事業『ユカギルマンモスミュージアム』は大好評であったことなど記憶に新しい。また、「のんほいパーク」内の動植物園では愛知の生き物が確認できる。当エリアがさらに活用され、地域の自然と環境を学ぶ一大拠点となることを期待する。

自然史博物館へ行こう！

総括質問 環境文化都市の将来像は如何にあるべきか

豊かな自然と市町村の界を越えた環境への取り組みが東三河を結束させる。第5次総合計画が策定されるなかで、COP10を契機として環境文化都市豊橋の将来の姿はいかにあるべきか、佐原市長のお考えをうかがう。

佐原市長 答弁 生物はすでにサステイナブルではなくサバイバルな状況に突入したといわれています。名古屋でのCOP10開催により、本市においても生物多様性についての意義の浸透が図られ、市民や事業者の環境に配慮する意識はこれまで以上に高まっていくものと考えます。生物多様性やCO2削減といった課題は困難な課題でもありますが、先ほどお話のあったグリーンカーテンの「風船かづら」など、すぐに取り組めることは積極的に取り組みたい。環境への配慮は、様々な分野にわたる横断的な行政課題であるとともに土地利用や交通体系など都市づくりの考え方にも影響を与え得る。本市将来像の構成要素として一層重要になっていくと認識しており、その具体については、第5次総合計画策定作業を進める中で示していきたい。

(ウ) 環境教育の刷新、言い換えればバージョンアップが可能では？

答 校区の実状に応じ、様々な切り口から環境教育に取り組んでいます。子どもたちが、たくさんの生き物がつながりあって生きている「生物多様性」の大切さについて理解し、自分たちの生活と結びつけ、より広い視野で環境を見つめられるようになることを期待しています。

おもい 本年度より始めた緑のカーテン「風船かづら」に7種類のハチが来ているとか。食農教育の一環として田圃(たんぼ)を借り、米づくりをしている学校があるが、田圃は生物の多様性に富む最高のビオトープ。その生態研究や、通水している用水の生態研究までにも環境教育の可能性がある！

来年の夏休みに開催予定のCOP10プログラム「子ども環境会議」「世界ユース環境会議」など活用し、子どもたちの自然や環境を通じた交流を図る試み、実績のある素晴らしい豊橋の教育を信頼して大いに期待する。

(エ) 意義・狙いに『県民・企業・行政の環境力の向上を図る』がある。諸産業への企業の取り組みと支援に対する認識についてうかがう。

答 企業活動における環境負荷軽減は、技術開発、経営面、地域貢献を目的とした社会活動においても必要不可欠であり、今回はその取り組みが世界に発信される絶好の機会です。必要な支援を行います。

おもい **農業**生物多様性や環境に配慮した農薬・化学肥料を見て確認できる取り組み。環境にやさしい方法で作出す新しい価値 **林業**三河材・ウッドマイルージ・フェアトレード、森づくり税(森林環境税)の活かし方 **漁業**三河湾内湾海洋資源の利用の持続的発展が可能な方法 **工業**環境技術展示会や植物工場 **商業**生物多様な価値に配慮した商品 **観光**「地域魅力発見バスツアー」など環境エクスカージョンなど…。企業が社会的責任を果たすことで、公害に対する対策に留まらず、環境への配慮による新しい価値観の創出と利益が産出されることを期待する！

(オ) 『生物資源の公正かつ衡平な利益配分のルールづくり』の認識と対応についてうかがう。

答 自らの食糧は、自然環境を生かし、自らで生産する、食料自給率の向上が重要であり、地産地消の推進に努めています。

問 『食糧自給率』の向上と『地産地消』の推進とのことだが、食糧生産の観点から地域としてどのような取り組みが必要と考えているか？

答 水田はわが国の高湿多湿の自然環境を生かしながら多くの生物を育てるとともに連作が可能な高度な生産システム。生産調整に協力しつつ水田を守る畜産飼料生産「稲発酵粗飼料」の普及拡大に取り組んでいます。

おもい 『食糧自給率』の向上と『地産地消』の推進により「フェアトレード」「フードマイルージ」などの問題解決の一助とすることを期待する。

おもい COP10の要旨は生物とうまく付き合うことといわれているが、東三河という視点で生物多様性と環境を考えるべきではないか。

- 渡り性水鳥の渡来地「汐川干潟」の低質、土壌、水質改善への取り組み
- 【海】「スナメリ」が生息する豊かな三河湾と片浜13里
- 【山】国の天然記念物「石巻山」を始めとする弓張山系の山々
- 【川】日本一の清流豊川
- 【都市】生物多様性の観点からの軌道式の緑化
- 【教育】「生命の知と工学の知の融合をめざす」豊橋技術科学大学と、表浜海岸50キロを、ゴミ拾いをしながら歩き語るBLUE WALK活動など…
- 【市民運動】本市発祥の530運動、さらなる広域化や活性化など…
- 【NPO】東三河地域の市民・企業・行政がパートナーシップで一体となり取り組んでいる穂の国森づくりの会など…

COP10を機に「環境」「経済」「公平性」の課題を克服し、豊橋市が世界で最も進んだ環境文化都市となることを期待する。

“TOKUYA TIMES” 編集後記

国政を中心にわが国は大転換点を迎えています、「環境」「経済」「公平性」が最重要課題であることに変わりありません。

私の理想と掲げる豊かに暮らせる地方都市のあり方**生活文化都市に環境を加えて＝環境生活文化都市！**

世界一住みやすく、文化と活気にみなぎる地方都市の

実現に向けて**“一所懸命”**に頑張ります。

市政報告会のご案内

平成21年10月29日(木)18時30分より

松葉町2丁目カリオンビルにて

市政報告会を開催いたします。

一般質問・補正予算・決算など9月議会の報告と、新政権誕生と地方自治の行方がテーマです。

是非ぜひお越し下さい！

発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町3-70

FAX: 0532-56-5521

TEL: 0532-53-4556

bbito@mx1.tees.ne.jp

携帯: 090-3855-9696